

胎児合併症、胎児水腫、非免疫性胎児水腫1

母体 - 胎児医学会として非免疫性胎児水腫の検査と管理に関し、根拠に基づいたガイドラインを提供するために、データベースから関連論文を収集し系統的レビューを試みた。非免疫性胎児水腫は赤血球同種免疫を欠く状態で認められる胎児における2か所以上の異常な液体の貯留と定義される。推奨される検査は間接クームズテスト、胎児と胎盤の詳細な超音波検査、中大脳動脈の血流検査、胎児核型分析、マイクロアレイ分析などである。勧告に沿った治療法は背景となる病因や妊娠週数などを考慮し決定し、対応能力のある施設で行う。染色体の異数性を認めない症例においても新生児の生存率はしばしば50%を下回る。

Society for Maternal-Fetal Medicine (SMFM) Clinical Guideline #7: nonimmune hydrops fetalis
Society for Maternal-Fetal Medicine (SMFM) pubs@smfm.org Mary E. Norton, Suneet P. Chauhan, Jodi S. Dashe
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):127-139

【文献番号】 o01500 (胎児合併症、胎児発育)

分娩後出血、管理、プロトコール、質的向上4

調査期間中において52,819例の分娩が認められ、3,105例(5.9%)に分娩後出血が発生した。「学際的分娩後出血安全プログラム」の導入後、子宮収縮剤の使用、子宮内バルーンタンポナーゼ、Bリンチ縫合法、子宮動脈塞栓術および凍結血漿の使用頻度が有意に上昇した。同時に、分娩後出血のために入院からICUへの入院となるまでの日数は有意に上昇した。

Does a postpartum hemorrhage patient safety program result in sustained changes in management and outcomes?
Brett D. Einerson, Emily S. Miller, William A. Grobman
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):140-144.e1

【文献番号】 o05200 (産科ショック、子宮復古不全、分娩後出血、貧血、子宮動脈塞栓術、止血法)

疫学調査、早発頸管熟化、前駆状態、スクリーニング、早産、予測因子、橋渡し研究6

頸管のスクリーニングを試みた研究をレビューしたところ頸管のファンネリングの発現頻度は0.7～9.1%であった。頸管長や頸管のファンネリングを指標に早発頸管熟化の複合的な測定と頸管長単独との比較をしたところ複合的スクリーニングによって精度は改善することが示唆された。

Precocious cervical ripening as a screening target to predict spontaneous preterm delivery among asymptomatic singleton pregnancies: a systematic review
Qing Li, Mathew Reeves, John Owen, Louis G. Keith
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):145-156

【文献番号】 o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)

ART、報告システム、IVF8

ARTの成績の公開の歴史と最近の報告の状況について調べ、将来どのように改革すればよいのか検討した。1992年に制定された法律(FCSRCA)によって個々のARTクリニックは毎年臨床結果を報告するよう義務付けられた。474のARTクリニックの中の443機関(93.5%)が成績を報告しているが、31施設(6.5%)は報告していない。ARTに関わる重要な結果が公開されており高い評価が得られている。一部のクリニックからは不適切な報告が行われ成功率を過大評価させるようなことにもなっている。vitrification、バンク、PGS、minimal stimulation protocol、子宮内膜調整法などに関する報告も適正に行わなければならない。反復して採卵し得られた自己の卵子や胚をその後まとめて1回胚移植を行うなどという方法も試みられている。複数の採卵と1回の胚移植を行う方法の結果は新鮮胚移植に含まれていないが、そのような報告されていない周期は7.4%にも達する。ARTの結果の報告システムに関しては、さらに検討しバイアスが伴わない結果を報告するシステムに改変しなければならない。

Public reporting of assisted reproductive technology outcomes: past, present, and future
R. Stan Williams, Kevin J. Doody, Glenn L. Schattman, Eli Y. Adashi
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):157-162

【文献番号】 r01100 (ART総論、ART評価法)

意思決定モデル、早期妊娠喪失、治療法、費用対効果10

早期妊娠喪失に対し通常試みられる対応法よりも治療の選択肢を拡大することによって直接費用の軽減を図ることができる。

Beyond usual care: the economic consequences of expanding treatment options in early pregnancy loss
Vanessa K. Dalton, Angela Liang, David W. Hutton, Melissa K. Zochowski, A. Mark Fendrick
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):177.e1-177.e6

【文献番号】 o01100 (流産、性器出血、病因、診断、処置、リスク因子)

腹腔鏡下手術、ロボット手術、single-site surgery、single-port surgery 11

いろいろな婦人科疾患に対し、シングルポートを用いたロボット手術、すなわち R-LESS (robotic laparo-endoscopic single-site) は経験に富んだ外科医によって実施された場合、妥当で安全な手術法であることが確認された。R-LESS と multiport approach および conventional approach の有用性と費用に関する評価についてさらに検討してみる必要がある。

Gynecologic robotic laparoendoscopic single-site surgery: prospective analysis of feasibility, safety, and technique
Stacey A. Scheib, Amanda N. Fader
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):179.e1-179.e8

【文献番号】 g07300 (腹腔鏡下手術、ミニラパロトミー、ロボット手術)

ブピバカイン、局所麻酔、腹腔鏡下手術、腹横筋膜面ブロック 13

多様な麻酔のレジメンを用いて調べたところ、腹横筋膜面ブロックはトラカールの挿入部位の浸潤麻酔と比較し臨床的有用性はないという結果が得られた。

Randomized controlled double-blind trial of transversus abdominis plane block versus trocar site infiltration in gynecologic laparoscopy
Lena El Hachem, Ethan Small, Peter Chung, Erin L. Moshier, Kathryn Friedman, Suzanne S. Fenske, Herbert F. Gretz
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):182.e1-182.e9

【文献番号】 g07300 (腹腔鏡下手術、ミニラパロトミー、ロボット手術)

異痛症、疼痛過敏症、protease inhibitor、外陰部痛 15

常に外陰の疼痛を有する続発性外陰部痛と診断された一群の女性において、膣におけるprotease inhibitor の産生の不足が疼痛感度の上昇にかかわっている可能性がある。

Decreased concentration of protease inhibitors: possible contributors to allodynia and hyperalgesia in women with vestibulodynia
Aswathi Jayaram, Faith Esbrand, Georgios Dulaveris, Theofano Orfanelli, Ryan Sobel, William J. Ledger, Steven S. Witkin
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):184.e1-184.e4

【文献番号】 g01600 (膣前庭炎、外陰部痛、その他の外陰部疾患)

子宮頸癌、子宮内膜癌、腹腔鏡下外科的期別診断、同日退院、ロボット手術 16

子宮内膜癌患者や子宮頸癌患者において腹腔鏡下あるいはロボテック腹腔鏡下期別診断後の同日退院は、妥当で、また安全な対応法であるという結果が得られた。合併症の発現率は低く2週間以内に再入院や予期しない接触が必要となった患者は少数に留まった。

Same-day discharge is feasible and safe in patients undergoing minimally invasive staging for gynecologic malignancies
Kristine R. Penner, Nicole D. Fleming, Leah Barlavi, Allison E. Axtell, Scott E. Lentz
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):186.e1-186.e8

【文献番号】 g07300 (腹腔鏡下手術、ミニラパロトミー、ロボット手術)

卵巣癌、発現部位、子宮内膜癌、漿液性癌、生存分析 19

進行期の漿液性癌患者において、卵管癌においては卵巣癌、腹膜癌および子宮癌と比較し良好な生存率が得られる。

Survival differences in women with serous tubal, ovarian, peritoneal, and uterine carcinomas
Irina Usach, Kevin Blansit, Lee May Chen, Stefanie Ueda, Rebecca Brooks, Daniel S. Kapp, John K. Chan
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):188.e1-188.e6

【文献番号】 g04120 (悪性卵巣腫瘍)

腹腔鏡下手術、ロボット手術、術後疼痛、QOL 22

婦人科疾患における一般的な腹腔鏡下手術群とロボット手術群において、術後の疼痛のレベルには差異は認められなかった。また、疼痛は日々の生活の活動に影響は与えないという結果も得られた。睡眠の障害に関しては両側卵管-卵巣切除術に関わる要因などで補正し、検討してみる必要がある。

A prospective comparison of postoperative pain and quality of life in robotic assisted vs conventional laparoscopic gynecologic surgery
Jenna R. Zechmeister, Tarah L. Pua, Leslie R. Boyd, Stephanie V. Blank, John P. Curtin, Bhavana Pothuri
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):194.e1-194.e7

【文献番号】 g07300 (腹腔鏡下手術、ミニラパロトミー、ロボット手術)

急性呼吸器疾患、インフルエンザ、インフルエンザワクチン、妊娠、重症度23

インフルエンザは非インフルエンザによる急性呼吸器疾患よりも妊婦に大きなネガティブな影響を与えることが症状の重症度や発熱の状態から明らかとなった。このような結果は、妊婦におけるインフルエンザの予防と治療の重要性を示唆するものである。

Severity of influenza and noninfluenza acute respiratory illness among pregnant women, 2010-2012
Leslie Z. Sokolow, Allison L. Naleway, De-Kun Li, Pat Shifflett, Sue Reynolds, Michelle L. Henninger, Jeannette R. Ferber, Roxana Odouli, Stephanie A. Irving, Mark G. Thompson, Pregnancy and Influenza Project Workgroup
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):202.e1-202.e11

【文献番号】 o03800 (妊娠合併症、内分泌疾患、偶発疾患、悪性腫瘍、血栓症、薬剤、STD)

喫煙、コチニン、テロメア、胎児、臍帯血26

妊娠中の喫煙と胎児におけるテロメアの短縮とは正の相関があることを初めて示した今回の結果は胎内で喫煙の影響を受けたものにおいては、子宮内で加齢を促進するようなプログラミングが存在することを示唆するものである。

Impact of intrauterine tobacco exposure on fetal telomere length
Hamisu M. Salihu, Anupam Pradhan, Lindsey King, Arnut Paothong, Chiaka Nwoga, Phillip J. Marty, Valerie Whiteman
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):205.e1-205.e8

【文献番号】 o12221 (妊娠合併症、歯周病、生活習慣、嗜好品、薬剤、環境汚染、薬物中毒、HIV、ワクチン)

脳性麻痺、絨毛羊膜炎、サイトカイン、臍帯炎、胎盤27

頭部の超音波検査の所見にかかわらず、胎児の炎症がPPROMに伴って認められるネガティブな神経学的臨床結果と相関するという結果が得られた。このような結果を適切に評価するためにはさらに縦断面的の研究が必要で、それによってリスクの評価と介入的戦略を生み出す上で助けとなるものと思われる。

Inflammatory predictors of neurologic disability after preterm premature rupture of membranes
Jennifer Armstrong-Wells, Meghan Donnelly, Miriam D. Post, Marilyn J. Manco-Johnson, Virginia D. Winn, Guillaume Sebire
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):212.e1-212.e9

【文献番号】 o08100 (新生児仮死、新生児痙攣、神経発達障害、脳性麻痺、新生児合併症、新生児アシドーシス)

多胎妊娠、新生児合併症、PPROM、周産期死亡、新生児合併症、待期療法29

妊娠26週0日未満でPPROMをみた多胎妊娠例において、生存し退院に至ったものの割合は43%であったが、問題となる新生児合併症を伴わなかったものは17%に留まった。これらのデータは早期のPPROMを伴った多胎妊娠を有する女性のカウンセリングと管理に資する基本的なデータとなるものである。

Outcomes of expectantly managed pregnancies with multiple gestations and preterm premature rupture of membranes prior to 26 weeks
Luchin F. Wong, Calla M. Holmgren, Robert M. Silver, Michael W. Varner, Tracy A. Manuck
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):215.e1-215.e9

【文献番号】 o07300 (多胎妊娠/多胎分娩関連事項)

侵入胎盤、母体合併症、癒着胎盤、楔入胎盤、嵌入胎盤、穿通胎盤、学際的アプローチ31

病的癒着胎盤の患者において専門的学際チームによる標準化アプローチを導入したところ母体の臨床結果は改善し、特に嵌入胎盤や穿通胎盤などの侵襲性の強い癒着胎盤の症例においては、非学際的アプローチを試みたものに比べ母体の臨床結果に改善が認められた。標準化アプローチを試みた場合には緊急分娩となる頻度は低下した。

Maternal morbidity in patients with morbidly adherent placenta treated with and without a standardized multidisciplinary approach
Alireza A. Shamshirsaz, Karin A. Fox, Bahram Salmanian, Concepcion R. Diaz-Arrastia, Wesley Lee, B. Wycke Baker, Jerasimos Ballas, Qian Chen, Teelkien R. Van Veen, Pouya Javadian, Haleh Sangi-Haghpeykar, Nicholas Zacharias, Stephen Welty, Christopher I. Cassady, Amirhossein Moaddab, Edwina J. Popek, Shiu-ki Rocky Hui, Jun Teruya, Venkata Bandi, Michael Coburn, Thomas Cunningham, Stephanie R. Martin, Michael A. Belfort
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):218.e1-218.e9

【文献番号】 o04200 (前置胎盤、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離、臍帯異常、胎盤機能不全、前置血管)

産科的血栓塞栓症、リスク因子、重度母体合併症33

経膈分娩を試みた女性において静脈血栓塞栓症に対して極めてリスクが高い少数の女性以外に静脈血栓塞栓症の予防処置を講ずることは稀であった。静脈血栓塞栓症が上昇してきていることを考えると、静脈血栓塞栓症の予防処置を拡大することで、重度の母体合併症の低下や死亡率を低下させることになるか否か検討してみる必要がある。

Thromboembolism incidence and prophylaxis during vaginal delivery hospitalizations
Alexander M. Friedman, Cande V. Ananth, Eri Prendergast, Suneet P. Chauhan, Mary E. D'Alton, Jason D. Wright
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):221.e1-221.e12

【文献番号】 o03800 (妊娠合併症、内分泌疾患、偶発疾患、悪性腫瘍、血栓症、薬剤、STD)

診断基準、妊娠糖尿病、スクリーニング、カナダ糖尿病協会、国際妊娠糖尿病連合.....36

カナダ糖尿病協会 (CDA) の基準に代わって国際妊娠糖尿病研究グループ連合 (IADPSG) の基準を用いることによって妊娠糖尿病の発現率に顕著な上昇が認められ、ネガティブな妊娠のリスクのある女性をさらに検知することになるものと思われる。BMI などの背景で補正した後においてもこのような観察結果が認められるのか否か、これらの症例に治療を施すことによって、周産期の臨床結果が改善するのか否かということに関してはさらに研究を進める必要がある。

The impact of adoption of the International Association of Diabetes in Pregnancy Study Group criteria for the screening and diagnosis of gestational diabetes
Karli Mayo, Nir Melamed, Hilde Vandenberghe, Howard Berger
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):224.e1-224.e9

【文献番号】 o03100 (妊娠糖尿病、妊婦管理)

胎児重量、母体-胎児物質交換、母体肥満、トロホプラスト39

体重の重い児を出産した肥満女性において、母体の空腹時血糖と胎盤のグルコースの移送能は上昇していないことから考え、胎盤の大きさの増大がグルコースの児への移送を促進しているものと考えられる。

Increased glucose and placental GLUT-1 in large infants of obese nondiabetic mothers
Ometeotl Acosta, Vanessa I. Ramirez, Susanne Lager, Francesca Gaccioli, Donald J. Dudley, Theresa L. Powell, Thomas Jansson
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):227.e1-227.e7

【文献番号】 o11400 (胎児付属物、妊娠の生理)

妊娠、非産科的手術、胎児生存能、早産、リスク因子40

胎児が生存可能な時期における非産科的手術は手術の部位あるいは手術のタイミングにかかわらず早産のリスクの上昇をもたらすという結果が得られた。しかし、術中および手術直後の産科的合併症の発現頻度は比較的低位に留まった。

Antepartum nonobstetrical surgery at ≥ 23 weeks' gestation and risk for preterm delivery
Elizabeth A. Baldwin, Kristi S. Borowski, Brian C. Brost, Carl H. Rose
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):232.e1-232.e5

【文献番号】 o03800 (妊娠合併症、内分泌疾患、偶発疾患、悪性腫瘍、血栓症、薬剤、STD)

頸管長、早産、前回正期産、一律スクリーニング、経膈的プロゲステロン投与.....41

正期産の既往のある女性は未産婦の女性と比較し頸管長が20mm 以下になる頻度に低下傾向が認められた。正期産の既往のある女性において経膈的超音波検査による頸管長のスクリーニングを加えるべきか否かという点に関してはさらに研究が必要である。

Is universal cervical length screening indicated in women with prior term birth?
Kelly Marie Orzechowski, Rupsa Boelig, Sara Shaw Nicholas, Jason Baxter, Vincenzo Berghella
Am J Obstet Gynecol.2015Feb;212(2):234.e1-234.e5

【文献番号】 o01300 (早産、切迫早産、子宮収縮抑制、診断、治療、リスク因子、モニタリング、ACS、ステロイド)
